

2008 年度

事 業 報 告 書

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市栄田町 1057 番地

学 院

建学の理念に堅く立って

院長 林田秀彦

2009年度目標聖句

「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」

コリント信徒への手紙 4章18節

使徒パウロは、「四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず・・・わたしたちは落胆しません。「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。私たちは見えるものではなく見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」と申しました。2千年の時を超えて迫ってくることばではないでしょうか。

競争原理に基づく経済優先の社会構造は世界的規模で破綻をきたし混迷の度を深めております。この様な時代に在って、学院創立128年の歴史を通して行ってきたキリスト教による人格の育成「こころの教育」が益々重要であるとの認識を深めるものです。

鎮西学院教育理念の具現化のために4つの「P」として

Personality 一人一人の個性を重んじ、品性高潔なる人格に育てる
(創立者 C.S ロングの言葉より)

Pray (Piety) 「敬天愛人」「自治敬虔」を尊ぶ祈りのこころを育てる。
(高等学校校歌より)

Practice 社会に貢献できる実践力を育てる。
(長崎ウスレヤン大学の特質より)

Peace 平和を祈り、隣人を愛し、共に生きようとするサーバント・リーダーシップを
育てる。
(平和宣言より)

このために、幼稚園、高等学校、大学と夫々の教職員が自覚的に密接な意思の疎通を図ることに努め、また校友会、PTA、後援会、関係者共に一致協力して鎮西学院教育を推進していかねばならないと思います。

行事計画〔学院全体としての取り組み〕

- ・ 新年礼拝 1月 日 9時15分 チャペル
- ・ 平和祈念礼拝、 原爆犠牲者慰霊碑建立・除幕式 8月9日
- ・ 諫早市民クリスマスコンサート 2009年12月12日(土)
- ・ 幼稚園、高校、大学における礼拝の充実、と聖書教育プログラムの協力、
- ・ 幼稚園礼拝協力 (林田院長、山城宗教主事、鉄口宗教主任、他)
- ・ 物故者祈念礼拝, 創立記念礼拝、メイ・フェスタなどへの参加
- ・ 教会〔長崎地区〕との協力関係
- ・ 高校大学教育プログラムの連携
- ・ 創立130年記念準備委員会発足
- ・ 鎮西学院カブリー教育基金(仮称)

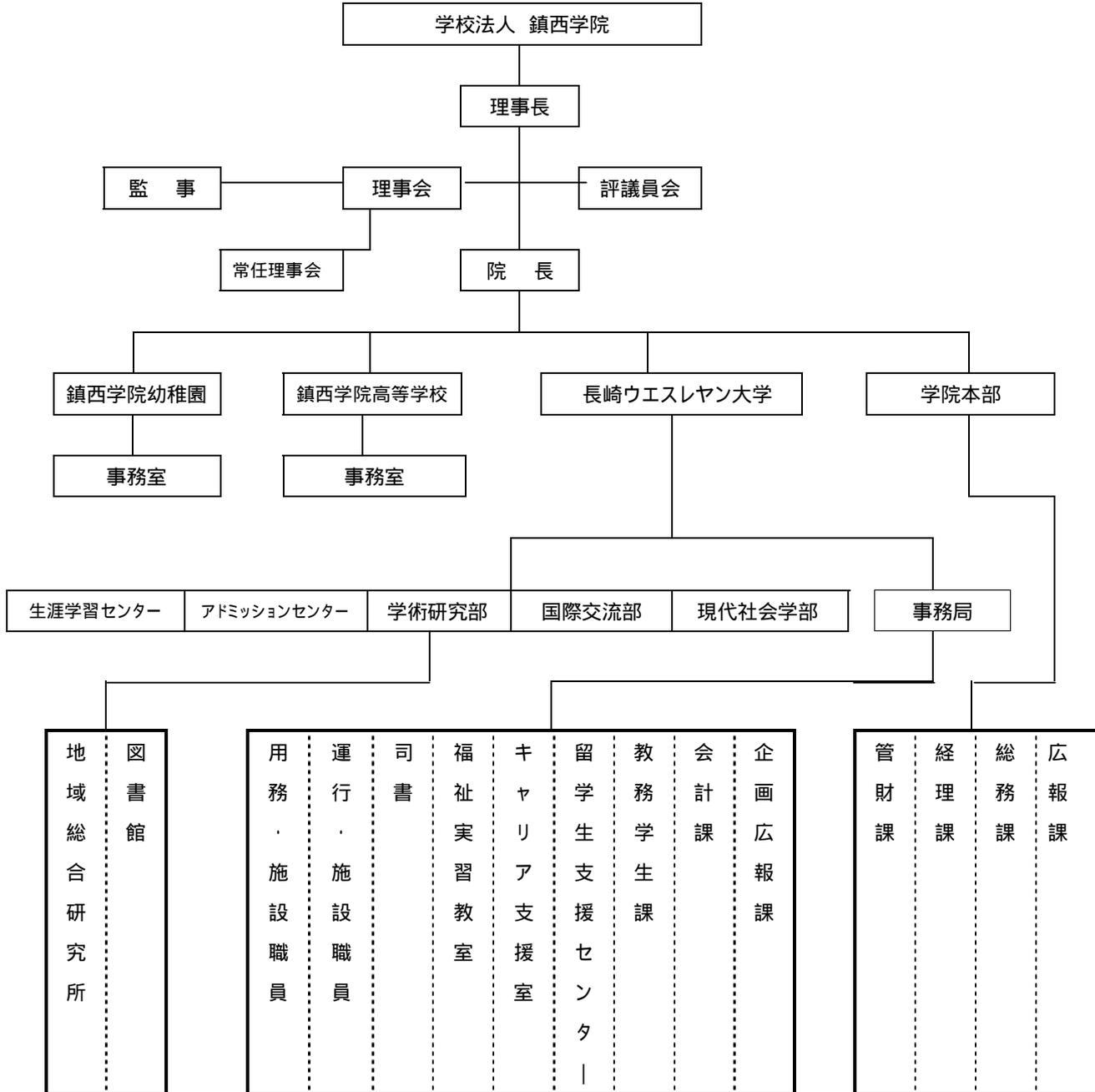
鎮西学院のあゆみ

- 1881.10 (明治 14) 本学の前身、加伯利(カプリ-)英和学校を長崎市東山手6番地に創設。
創設者・神学博士C.S.ロング氏、初代校長となる。
1889. 9 (明治 22) 校名を鎮西学館と改称。つづいて学則を改めて、予科を5ヶ年制の中学部、
高等科を3ヶ年制の高等学部とする。
1906. 5 (明治 39) 私立鎮西学院と改称し、笹森卯一郎氏が日本人初の院長に就任する。
1930. 1 (昭和 5) 新築校舎竣工につき東山手の旧校舎を去り、竹之久保町の移転に移転する。
1945. 8 (昭和 20) 原子爆弾の投下により校舎壊滅し、職員7名、生徒110余名が犠牲となる。
1946. 3 (昭和 21) 諫早市永昌町海軍病院跡に移り開校。
1947. 4 (昭和 22) 新制中学と新制高等学校が男女共学で開校する。
1951. 4 (昭和 26) 中井が原の旧ゴルフ場跡地を購入し移転する。
(1949年寄宿舎、1951年高校校舎、1952年中学校校舎、1953年体育館)
1955. 4 (昭和 30) 幼稚園設置。
1962. 1 (昭和 37) 創立80周年に講堂が落成し、創立80周年記念式典と講堂の献堂式を行う。
1966. 3 (昭和 41) 新制鎮西学院中学校を閉校。
1966. 4 (昭和 41) 鎮西学院短期大学(英語科)を設置。翌年、教養科を増設。
1980. 4 (昭和 55) 鎮西学院短期大学を長崎ウエスレヤン短期大学と改称する。
- 1981.10 (昭和 56) 創立100周年を迎える。
1983. 9 (昭和 58) 100周年記念館落成する。
- 1991.10 (平成 3) 創立110周年を迎える。1988年より3カ年に亘り、高校校舎、体育館、新口
ング寮を完成させる。110周年記念写真集発行。
- 1996.4 (平成 8) 短期大学創立30周年を迎える。
- 2001.10 (平成 13) 創立120周年を迎える。
2002. 4 (平成 14) 長崎ウエスレヤン大学開校。(短期大学を改組転換)
2005. 4 (平成 17) 鎮西学院幼稚園創立50周年を迎える。
2005. 4 (平成 17) 大学は社会福祉学科、地域づくり学科、国際交流学科の3学科に改組。
2005. 8 (平成 17) 鎮西学院被爆60年平和記念事業として、平和の鐘の建立、平和宣言の碑の
建立、長崎から諫早までの平和大行進を行う。
2006. 7 (平成 18) 創立125周年記念写真展「いにしえの長崎」を長崎県美術館で開催。
- 2006.10 (平成 18) 創立125周年を迎える。創立125周年記念式典を行う。
2007. 2 (平成 19) 高校セミナーハウス設置。

設置する学校等及び入学定員

長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 定員 160名
 社会福祉学科 80名 地域づくり学科 40名 国際交流学科40名
 鎮西学院高等学校(全日制課程) 定員 300名
 普通科 200名 商業科 100名
 鎮西学院幼稚園 定員 140名

学院組織



学院役員

2009年5月1日現在

理事 長	栗 林 英 雄
院 長	林 田 秀 彦
大 学 長	森 泰 一 郎
高 校 長	川 村 正 徳
園 長	渡 部 勇
法 人 事 務 局 長	加 藤 育 男
宗 教 主 事	山 城 順(大学) ・ 鉄 口 宗 久(高校)

理 事 会

理事会開催状況

- ・ 2008年 5月29日 定期理事会
- ・ 2008年 10月16日 定期理事会
- ・ 2008年 12月 9日 定期理事会
- ・ 2009年 3月27日 定期理事会

理事・監事

(理事定数 15名 監事定数 2名)

2009年5月1日現在

番号	職 名	氏 名	選任区分	職 業
1	理 事 長 (非常勤)	栗 林 英 雄		理事長
2	理 事 (常勤)	林 田 秀 彦	職 務 上	院長
3	理 事 (常勤)	森 泰 一 郎	職 務 上	学長
4	" (常勤)	川 村 正 徳	職 務 上	校長
5	" (常勤)	渡 部 勇	職 務 上	園長
6	" (常勤)	加 藤 育 男	職 務 上	法人事務局長
7	" (非常勤)	栗 林 英 雄	校 友 会	九州ガス㈱代表取締役会長
8	" (非常勤)	市 川 森 一	校 友 会	脚本家
9	" (常勤)	山 城 順	教 職 員	宗教主事
10	" (常勤)	鉄 口 宗 久	教 職 員	宗教主事
11	" (非常勤)	齊 藤 堅 固	学識経験者	九州学院監事
12	" (非常勤)	杉 原 宏 一	学識経験者	学院教育顧問
13	" (非常勤)	森 俊 介	学識経験者	長崎病院院長
14	" (非常勤)	西 原 英 磨	学識経験者	
15	" (非常勤)	瀬 頭 昭 治	学識経験者	杵ノ川酒造代表取締役
16	" (非常勤)	木 ノ 脇 悦 郎	教 役 者	福岡女学院院長
17	監 事 (非常勤)	渡 瀬 寛		㈱ワタセ工芸社代表取締役
18	" (非常勤)	井 手 雅 康		税理士

評議員会

評議員会開催状況

- ・ 2008年5月29日 定期評議員会
- ・ 2009年3月27日 定期評議員会

評議員

(評議員定数 31 名以上 32 名以内)

2009年5月1日現在

番号	職名	氏名	選任区分	番号	職名	氏名	選任区分
1	評議員	林田秀彦	職務上	26	評議員	未定	幼稚園保護者
2	"	森泰一郎	職務上	27	"	齊藤堅固	学識経験者
3	"	川村正徳	職務上	28	"	杉原宏一	学識経験者
4	"	渡部勇	職務上	29	"	森俊介	学識経験者
5	"	金原俊輔	職務上	30	"	西原英磨	学識経験者
6	"	川崎健	職務上	31	"	山口哲生	学識経験者
7	"	山城順	職務上				
8	"	鉄口宗久	職務上				
9	"	加藤育男	職務上				
10	"	内村公義	大学教員				
11	"	佐藤快信	大学教員				
12	"	鈴木勇次	大学教員				
13	"	向敏彦	高校教員				
14	"	早稻田信衛	高校教員				
15	"	原建彦	高校教員				
16	"	米崎貞博	大学職員				
17	"	駒庭高明	高校職員				
18	"	栗林英雄	校友会				
19	"	市川森一	校友会				
20	"	北浦定昭	校友会				
21	"	西嗣也	校友会				
22	"	木ノ脇悦郎	教役者				
23	"	未定	大学保護者				
24	"	阿比留みさき	高校保護者				
25	"	池田康則	高校保護者				

教職員状況 2009年5月1日現在

鎮西学院本部

区分	職種等	人 員
	理事長(非常勤)	1
	院 長	1
	事 務 局 長	1
	総 務 課	4
	経 理 課	3(1)
	管 財 課	(1)
	用務・施設職員	1
合 計	11(2)	

長崎ウエスレヤン大学

区分	職種等	人 員
教育職員	学 長	1
	教 授	17
	准 教 授	6
	講 師	5
	助 教	2
	非 常 勤	64
合 計	95	
事務局	事 務 局 長	1
	総 務 課	(3)
	企 画 広 報 課	5
	会 計 課	(5)
	教 務 学 生 課	5
	福祉実習教育室	2
	キャリア支援室	1(1)
	留学生支援センター	2
	図 書 館	2
	運行・施設職員	1
	学 科 事 務	(3)
合 計	19(12)	
合 計	114(12)	

鎮西学院高等学校

区分	職種等	人 員
教育職員	校 長	1
	副 校 長	1
	教 頭	1
	教 諭	37
	養 護 教 諭	2
	非 常 勤 講 師	29
合 計	71	
事務・運行用務	事 務 長	1
	庶 務 ・ 経 理 係	5
	司 書	1
	運 行 ・ 施 設 職 員	7
	寮務・寮生活指導職員	1
用 務 ・ 施 設 職 員	1	
合 計	16	
合 計	87	

鎮西学院幼稚園

区分	職種等	人 員
教育職員	園 長	1
	主 任 教 諭	1
	教 諭	5
合 計	7	
事務	運行・施設職員	1
合 計	8	

部 署	人 員
鎮 西 学 院 本 部	11
長崎ウエスレヤン大学	114
鎮西学院高等学校	87
鎮西学院幼稚園	8
合 計	220
合計(除く非常勤)	126

()内は兼務職員、派遣職員で実数に含まず。

長崎ウエスレヤン大学 2008 年度 事業報告

大学中期経営目標の達成状況

1. 大学中期経営目標の達成状況

計画期間；2007(平成 19)年～2011(平成 20)年度の 5 ヶ年

経費の節減・内部統制に努めるとともに、学生募集力の強化により経営定員を確保し、将来展望を拓くため、資金量の拡大を図る。

【中期経営目標】

年度	財 務		学生募集	
	年次目標	達成度	年次目標	達成度
2007	減価償却前 消費収支差額黒字	達成	プラス 15 人作戦	達成
2008	減価償却前 消費収支差額黒字	達成	入学者 125 人の見通し	ほぼ 達成
2009	帰属収支差額黒字		入学者 140 人以上が必要	対目標 70%
2010	帰属収支差額黒字		入学者数 150 人以上が必要	
2011	消費収支差額黒字		入学定員充足を達成	

2. 中期経営目標を実現するための 5 ヶ年の全学的な目標

学生募集力を強化し、入学定員を充足する。

学生募集力強化のため、大学の認知度をアップする。

キャリア支援としての魅力ある教育研究プログラムを充実・強化する。

「めんどろみの良さ」の質を維持・向上するため、教育力 / 学習支援力のスキルアップに組織的に取り組む。

特に、学生募集力の強化にあたっては、日本人学生を倍増し、学部留学生の適正規模化を図るとともに、新たなマーケットとして今後、拡大が期待される社会人の学び直しについて、積極的に対応できるよう、教育プログラムの開発に、年次的に取り組む。

3. 2008 年度目標の達成状況

財務目標；「減価償却前の消費収支差額を黒字にする」

引き続き、支出の抑制に努め、資金量の減少を食い止めに取り組むと共に、「定員割れ改善特別補助」(日本私立学校振興・共済事業団)の効果的配分を行った。

その結果、財務に関する年次的目標は達成されたものの、2009 年度学生募集では、苦戦を強いられ、入学定員を割り込むこととなった。

教育研究分野

1. 大学認証評価への取り組み

日本高等教育評価委機構による大学機関別認証評価の結果、「キリスト教主義人格教育により、小規模体制を生かした学生支援が行われている」として、大学基準に適合しているとの評価を得た。この認定期間は、2008年4月1日から2015年3月31日までの7年間となる。

優れた点として、8項目（GPA制度の教育プログラムでの有効活用、障害のある学生の積極的受け入れ、コミュニティサービスや受託事業、国際交流等による社会貢献など）が挙げられた。また、参考意見としては、2項目（FDの組織的取り組みの必要性、中期経営計画の早急な成案）改善を要する事項として、校舎の老朽化への対応について指摘された。

2. キリスト教主義人格教育関連事業報告

(1) ピースアワーや学内外での様々なチャペル活動

4月～1月の学期中、毎週水曜日 10:30～11:00 にピースアワーを実施した。建学の精神や学院の歴史、留学や福祉実習等の様々な学生の活動報告の場とした。

この他、クリスマス礼拝やパストラルケア講演会、平和講演会の主催等の活動を行った。

(2) 学生の主体的参加・参画態度の動機付けやリーダーシップと母校愛を醸成するため、新入生交流会やメンタルヘルスケア、課外活動の支援、May Fiesta 等による異文化理解プログラムを実施した。

新入生交流会・・・学部新入生・交換留学生・日本語教育プログラム生を対象として、「学生相互や教職員との交流」をテーマに4月18日に「いこいの村長崎」にて開催。

メンタルヘルスケア・・・学生相談室にカウンセラー（非常勤）2人を配置。学生委員会のもとにメンタルヘルスケア委員会を設置し、学生相談室の利用状況、ケアの必要な学生への対応など、夏期FD研修会にてカンファレンスを実施。

課外活動の支援・・・テニス部の学外コート使用料補助、各体育部の遠征費の補助、引率を実施。

< 体育系部活動の主な成績 >

クラブ名	大会名	結 果
バレーボール部（男子）	九州大学春季リーグ	7部 1位 6部昇格
	九州大学秋季リーグ	6部 1位 5部昇格
バレーボール部（女子）	九州大学春季リーグ	7部 5位
	九州大学秋季リーグ	7部 2位
卓球部（男子）	全九州学生春季選手権大会	3部 5位
	全九州学生秋季選手権大会	3部 6位
卓球部（女子）	全九州学生春季選手権大会	3部 2位
	長崎県学生春季選手権大会	シングルス 準優勝 荒木香衣 ダブルス 準優勝 石原・荒木組
	全九州学生秋季選手権大会	3部 1位

クラブ名	大会名	結 果
卓球部(女子)	諫早市卓球選手権大会	一般シングルス 優勝 石原律子 一般シングルス 準優勝 荒木香衣
	長崎県卓球選手権大会	一般ダブルス 3位 石原・荒木組
	全九州大会長崎県予選	一般シングルス 準優勝 石原律子
テニス部	佐世保ト・ナメント(国体予選B)	3位 鍋内哲朗
	市長杯テニスト・ナメントダブルス大会	優勝 鍋内哲朗
軟式野球部	Summer Baseball ト・ナメント	6位
	Exciting Baseball ト・ナメント	6位
	Spring Baseball ト・ナメント	3位
	炎のドッジボール大会	準優勝
バドミントン部	全九州学生バドミントン大会	男子ダブルスBクラス 優勝永田・池田組
	長崎県学生バドミントン選手権大会	男子ダブルス 3位 永田・池田組

May Fiesta等の異文化理解プログラム・・・May Fiesta、国際フォーラム等の異文化理解プログラムを、留学生と本学日本人学生の共同企画により実施。

May Fiesta・・・5月17日開催。本学留学生による各国フードコートや語学教室、ゲストによる多彩なライブパフォーマンスなど。学生スタッフ60人による運営により、来場者数約300人を動員。

International Café・・・06年度より、毎月最終木曜日の夕方開催。アメリカ、カナダ、ブラジル、タイ、フィリピン、中国、韓国、台湾、毎回、留学生の母国であるいずれかの国をテーマに異文化体験プログラムを開催。多数の高校生及び一般市民の参加を得た。

International Forum, Speech Contest・・・12月に実施。留学生を交えた異文化理解についてのフォーラム及び本学学生による英語による各種発表を県内高等学校英語担当教員により審査。

- (3) 障害学生の支援体制の整備に引き続き取り組んだ。特に聴覚障害学生のためのノートテイクを始めとするスタディ・サポーターの養成を行い、障害学生からの申請に応じる支援体制の整備を継続して行った。

< 障害学生の在学状況 >

聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
2人	3人	1人	6人

(4) 退学・除籍者

08年度の退学・除籍者は34人となり、07年度より6人増加している。

34人のうち、3人が学費未納による除籍、退学者31名の内訳は、「進路変更(進学・他大学への編入)の為」15人、「修学意欲の喪失」5人、その他の理由は「健康上の理由」、「経済上の事情」であった。

	1年次	2年次	3年次	4年次	計
2008年度	10	14	3	7	34
2007年度	9	9	4	6	28
2006年度	5	2	5	8	20

3. オンラインの即戦力養成プログラムへの取組

06年度より、学生のライフデザインに基づく総合的キャリア支援教育プロジェクトとして、全学的に取り組んでいる。2007年度は、1・2年次の全学教育科目を見直し、社会人基礎力を養成するため、「大学入門」「基礎演習」「コミュニティサービス」等の科目内容の見直しを行った。2008年度は更に、基礎学力の強化に取り組み、入学者全員にプレースメントテストを実施し、一定の成績に達しない者に対して「社会基礎学力講座」の受講を義務付けた。

08年度卒業生の進路決定状況

卒業生の就職決定率 88.4% (5月15日現在)

就職決定者 84人 (男性49人 女性35人) 決定率 88.4%
(内訳) 一般企業 52人 (県内32人 県外20人)
福祉関係 32人 (県内26人 県外6人)
就職希望者 95人 (男性56人 女性39人)
(内訳) 一般企業希望者 63人
福祉関係希望者 32人
県内就職希望者 66人 県外就職希望者 29人

福祉関係国家資格合格率 カッコ内は全国平均

社会福祉士 合格率 13.6% (39.9%)

精神保健福祉士 合格率 36.4% (64.0%)

卒業生の質保証としてのキャリアアップ支援

公務員対策講座・・・受講希望者少数のため実施できなかった。

情報処理検定・・・06年度に引き続き検定料の補助を実施。

日商文書作成(ワード)3級 18名合格(51名受験)

Excel 検定3級 18名合格(39名受験)・同2級 合格1名(1名受験)

英語教育

英検・・・6月14名受験 2級3名合格(7名受験) 準2級2名合格(5名受験)
3級0名合格(2名受験)

TOEIC(IP)・・・7月・12月 2回実施

受験者数：63名(昨年度28名)

最高スコア：745点、最低スコア：165点

実用中国語検定・・・受講生は中国留学経験者中心に5名。

日商簿記検定対策講座

一般企業、特に事務職希望が増えているため昨年度より継続実施。

学生と指導教員の協働によるキャリア形成

全ての学年で個人面談を実施。気になる学生についてゼミ教官と情報交換及び意見交換を行った。

キャリア形成ハンドブック使用の拡充・・・大学入門・基礎演習・就職基礎・就職ガイダンス等におけるキャリアハンドブックの効果的活用が不十分だった。

キャリアハンドブック・・・学生のライフデザインと希望職種にそった四年間の学習計画、在学中の取得目標資格等、学生がゼミ担当教員との協働により主体的に作成するワークブックを発行する。このワークブックには併せて、社会人・職業意識の涵養に必要な知識や心構えを盛り込む。このワークブックを通して、学生の学習進度の自己評価をもとに、総合的な修学指導を行う。

キャリア支援センターとゼミ担当教員の連携・・・「基礎演習」において、キャリア支援室ツアーを実施。全部のゼミ（9ゼミ）の学生が参加。キャリア支援室の利用法やパソコンによる適職診断・キャリアの観点から4年間で行うべきことのレクチャー等を行った。

社会人になるための導入教育の強化

入学前教育の強化・・・推薦入試、AO入試による入学決定者を対象とした入学前教育を強化し入学後の導入教育への接続を図っている。

特に地域づくり学科では、入学決定後から入学までのほぼ毎月、課題図書に関する作文等の提出を呼びかけた。また、入学後、 Semester毎に基礎学力プレースメントテストを実施している。

「大学入門」でのキャリア教育強化・・・1年次生必修科目である「大学入門」の中で四年間のキャリア支援プログラムの説明、一般職業適性検査の実施、そのフォローガイダンスを行った。

「就職基礎」の効果・・・昨年度に引き続き2年次生対象に「就職基礎」を開講。

全15コマをキャリア支援センター長・キャリア支援室中心に、外部講師や多くの教員を取り込んで実施した。受講生93名、出席率は常時80%台と高かった。

特にグループディスカッションや報告会等コミュニケーション能力の向上に重点を置いた内容とした。また、評価を評価票（感想レポート）により行ったため文章力の向上にも役立ったと思われる。学生の感想でも、このような授業が必要であるという意見が大多数であった。

就職ガイダンスのプログラム強化・・・3年次生を対象とした就職ガイダンスのプログラムを強化するとともに専門演習との連携を図り、特に重要な回（採用担当者の話）では就職希望学生全員の出席を促した。全後期で12回開講。

学びの基本は体験主義 - ボランティアからインターンシップまで

インターンシップ・プログラムの強化・・・参加学生は、昨年度の22名から5名に減少した。5名の内訳は、3年生3名・2年生2名で、学科別では社会福祉学科3名・地域づくり学科2名であった。減少した理由としては、ガイダンス出席者が少なかったこと、魅力を感じる派遣先が少なかったこと、希望先と日程が合わなかったこと等が挙げられる。派遣先で高い評価を受けたことで自信を持つ学生や、客観的評価を受けて自分のことを改めて考える学生が見られ、今後の進路選択や就職活動に対する効果は大きかった。今後は、一般企業に就職を希望する多くの学生（学科から行く学生は除く）をインターンシップに派遣するとともに、日本企業への就職を希望する留学生については、日本語能力に加えて日本の商習慣や日本人の考え方を理解することが求められるため、積極的にインターンシップに参加させたい。

コミュニティサービスプログラム派遣状況
 <コミュニティ・サ - ビス (1・2年対象)>

	プログラム名	サイト名(会場・連携機関等)	担当教員名	活動時期	定員	受講数
1	いさはや・ウエルピエンス	諫早市社会福祉協議会他	金文華	通年	7	6
2	祭りと文化	御館山神社	渡辺勝義 内山憲介	通年	10	12
3	留学生の日本語学習支援	長崎ウエスレヤン大学	胡 振剛 高山乾忠	前期	15	16
4	国際交流イン多良見町	多良見図書館	兪 稔生	通年	6	4

<コミュニティ・サ - ビス ・ (全学年対象)>

	プログラム名	サイト名(会場・連携機関等)	担当教員名	活動時期	定員	受講数
5	高等学校への福祉教育支援プロジェクト	長崎ウエスレヤン大学 長崎福祉教育研究会	中野伸彦	通年	8	2
6	生徒児童支援プログラム	金原研究室	金原俊輔	通年	5	7
7	平和学習活動	山城研究室他	山城 順	通年	10	10
8	コミュニティサービス・チャペル	ピースチャペル	山城 順	通年	10	10
9	のんのこ諫早まつり	のんのこ諫早まつり実行委員会	亘 明志	4月～ 10月	10	6
10	親子のホッと空間・子どもあそび場づくり事業	諫早市、長崎ウエスレヤン大学	入江詩子 菅原良子	通年	10	10
11	日本語学習サポートプログラム	インターナショナルカフェ(A-302)	口メロ 有門 恵	後期	8	6
12	日本語教育プログラム	長崎ウエスレヤン大学	大里泰弘 齊藤仁志	通年	10	12
13	メンタルフレンドプログラムⅠ・Ⅱ	諫早少年センターふれあい学級(諫早市東小路町)	内村公義	通年	10	10
14	スペシャルオリンピックス	スペシャルオリンピックス長崎、主に諫早運動公園	内村公義	前期	15	16
15	離島活性化活動支援	長崎市伊王島	鈴木勇次	通年	10	10
16	スタディサポート	長崎県立こども医療福祉センター	太田勝代 菅原良子 開 浩一	通年	8	2
17	学童保育支援	ほくしょうクラブ(諫早市金谷町)	開 浩一	前期	6	8
18	まちの魅力発見CS	まちづくり研究所他	藤崎亮一	通年	5	1
19	まち研で地域支援	まちづくり研究室	佐藤快信	通年	20	2

<コミュニティ・サ - ビス (3・4年対象)>

	プログラム名	サイト名(会場・連携機関等)	担当教員名	活動時期	定員	受講数
20	精神保健福祉活動支援	精神保健福祉活動支援	村上 清 山口弘幸	通年	8	2

GPA 制度を核とした責任ある教育体制の整備

開学時より導入している G P A (Grade Point Average) 制度により、全体的な学力を評価する指標として G P A を修学指導、特待生継続資格判定において活用している。

<2008 年度累積 GPA 学年別平均>

学年	1 年	2 年	3 年	4 年
平均	2.34	2.01	2.29	2.19
最高	3.84	3.49	3.79	3.63
最低	0.40	0.10	0.50	0.30

<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に4年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積G P Aが3.50以上の上位の者、若しくは学期毎に、20単位以上を修得し、かつ累積G P Aが4.0以上の者

4年生 2人(累積 GPA3.6 取得単位数 185 単位)

(累積 GPA3.6 取得単位数 205 単位)

成績優秀賞・・・学期毎に、20単位以上を修得し、G P Aが3.50以上の者

1 年	2 年	3 年	4 年
4 人	3 人	2 人	1 人

カリキュラム改革と教育力の向上への取り組み

各学科の完成年度を迎え、新たなコースの設置と教育学習到達目標を明確にするため検討を行った。検討成果は、2009 年度の講義概要の巻末に「四年間の学習の目安」として掲載することとした。

また、基礎学力や日本語能力の不足する学生・留学生等、特別な支援を必要とする学生のための学習支援体制の教科について検討を行い、基本方針を明確にした。

4. 国際交流関連事業報告

国際交流プログラムの安定的な質的・量的確保のため、海外提携校の更なる開発を行うとともに、特にアジア地域における私費留学生の確保の拠点とした。

また、教学面においても、全学教育に「日本語」を、国際交流学科に「日本文化コース」を設置し、責任ある教育体制を整備することとした。

その結果、08 年度入学者は1年次 52 人 編入学生 2 人 計 54 人を獲得できた。

ただし、今後留学生を一定数確保するためには、住居やアルバイト先を確保する必要がある。

< 交換留学生の派遣・招致状況 >

国	協定校名	期間	派遣数 (人)	招致数 (人)
韓国	仁徳大学	1年		1
	慶南情報大学	半年		4
	慶北科学大学	1年		2
	大邱大学	1年	2	2
中国	天津師範大学	1年	3	2
		半年		
台湾	長榮大学	1年		2
タイ	College of Asian Scholars	1年		2
	Phon Commercial and Technical College	1年		2
フィリピン	University of Baguio	1年	4	2
ブラジル	Methodist University of Piracicaba	1年		2
アメリカ	Portland Community College	1年		1
カナダ	Thompson Rivers University	1年		1
		半年		
	Bow Valley College	半年	1	
計			10	23

< 海外スタディツアー・コミュニティサービス派遣状況 >

研修地	期間	派遣数(人)
カンボジア・タイスタディツアー	2週間	5
タイ・パヤオ CSP	1週間	4
タイ・コンケン CSP	2週間	8

5. 地域連携関連事業報告

教育研究の実践それ自体をコミュニティサービスとして位置づけ、大学と地域社会との共生、資源の還元と循環を通して「大学の地域化」と「地域の大学化」を図るため、以下の事業を実施。

公開講座の開催状況

NICE キャンパス コーディネイト科目「地域資源の利活用」全 15 回

実施時期；2008 年 10 月 1 日～2009 年 1 月 28 日 毎週水曜 18：00～19：30 開催

一般市民受講者数；のべ 260 人

諫早市子育て支援サポーター養成講座 全 4 回

実施時期；2008 年 12 月 20 日・2009 年 1 月 24 日・2 月 12・16・28 日

一般市民受講者数；約 200 人

諫早・大村 生と死を考える会

スピリチュアルケアセミナー 全 3 回

実施時期；2008 年 10 月 26 日・11 月 29 日、2009 年 2 月 15 日

科目等履修生の受入状況

のべ 33 名（スピーキング、手話、死生学等）

社会人の受入状況（2009 年 3 月 31 日付）

1 年	2 年	3 年	4 年	計
1 人	1 人	4 人	4 人	10 人

受託調査・事業

調査・事業名	委託元	金額
小値賀町地域づくり推進事業	小値賀町	1,000 千円
草の根技術協力事業（地域提案型）	JICA（国際協力機構）	1,300 千円
子育て支援サポーター養成講座	諫早市	600 千円
振動工具使用職員健康診断	長崎市	1,532 千円
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	-
計		4,432 千円

6. まちづくり工房の運営

06 年度より、諫早市との連携により、中心市街地商店街協同組合が建設した複合商業施設「アエルいさはや」内に設置の「まちづくり工房」の企画・運営を行い、教育・福祉・保健・医療等の総合的ネットワークの拠点づくりに取り組んだ。

7. 高大連携関連事業報告

福祉フォーラム等の三学科の趣旨に即した高校生のライフデザインに関するコンテストやフォーラムを開催するとともに、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究を継続して行なった。特に鎮西学院高等学校との高大連携については、継続的な教育プログラムを行った。

第 11 回高校生福祉フォーラム 11 月 16 日開催

参加状況； 161 人（うち高校生 79 人・高校教員 20 人）

高校生福祉大賞コンテストを開催。高校生 12 団体によるプレゼンテーションコンテストを開催。

異文化理解プログラム

国際交流学科の主催により、May Fiesta、International Café、International Forum、Speech Contest などの異文化理解プログラムを年間を通じて開催。多数の高校生が参加した。

第 6 回九州地区福祉系高校教員研究セミナー

11 月 15 日開催。文科省福祉教育に関する専門官を講師に迎え実施。九州圏内の福祉系高校教員が多数参加。介護福祉士制度の改正等、高校福祉教育の方向性について、意見交換を行った。

高等学校スポーツ部活動の応援

従来の企画「ウエスレヤンカップ」をテニス部の他、バレー部を対象にも実施。また、夏のオープンキャンパスでも、スポーツ部対象の企画を実施した。

鎮西学院高等学校との連携

高大連携教育室を設置し、学院内進学者の入学後の修学状況について、高校の先生方と連携し、報告会を実施した。

また、生徒向けオープンキャンパス5回、「福祉基礎講座」全13回を開催。また、保護者対象のキャンパスツアーや進学説明会を開催し、連携を深めた。

8. 学術研究の振興関連事業報告

個人研究費の配分状況

08年度の個人研究費については、財務逼迫の折、一律200千円の配分となった。

共同研究費の配分状況

地域総合研究所共同研究費は採択制により配分されるが、08年度の採択制の共同研究費は総額4,500千円（うち半額相当額は事業団特別補助の交付を受けた）

採択された研究課題は次のとおり。

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
草野洋介	教授	長崎県生活習慣状況調査結果によるメタボリック・シンドローム危険因子の解明と「健康ながさき21」の運動手法に対する応用
佐藤快信	教授	明治期における宣教師による社会開発の意義について - 外海町ド・口神父を事例に -
亘明志	教授	戦時動員労働者の遺骨返還に関する社会運動論的研究
金文華	講師	日・中・韓社会福祉教育及び障害者の就労支援に関する比較研究
入江詩子	准教授	描画分析によるタイにおける子育て環境に関する研究 - タイ北部及び東北部の小中学生を対象にして -
中野伸彦	教授	新カリキュラムに対応したソーシャルワーク実践事例の活用法に関する研究
斐 瑠俊	准教授	社会福祉協議会の運営管理を中心にした評価手法及び評価尺度の開発研究 - 社会福祉協議会版バランススコアカードを使うパイロット研究の継続

科学研究費補助金の獲得状況

08年度の科学研究費補助金は、研究分担金が2件、新規採択はなし、となった。

学生募集における重点施策

08年度も全教職員の連帯と協働をいま一度結集し、入学定員 160 名の確保に臨んだ。

< 2009 年度入学者数 >

	定員	出願者		合格者		入学者		
		国内	外国人	国内	外国人	国内	外国人	合計
社会福祉 (昨年度)	80 (80)	41 (57)	3 (1)	40 (55)	3 (1)	38 (48)	3 (1)	41 (49)
地域づくり (昨年度)	40 (40)	13 (17)	2 (11)	13 (17)	1 (9)	10 (14)	1 (9)	11 (23)
国際交流 (昨年度)	40 (40)	15 (11)	61 (59)	15 (11)	57 (51)	10 (9)	50 (46)	60 (55)
合計 (昨年度)	160 (160)	69 (85)	66 (71)	68 (83)	61 (61)	58 (71)	54 (52)	112 (123)

< 09 年度入学者 出身県別 >

	09 年度	08 年度	07 年度		09 年度	08 年度	07 年度
鎮西学院高校	24	30	55	熊本	1	0	0
長崎市内	11	16	17	大分	0	1	1
諫早・大村・島原	33	13	19	宮崎	0	1	0
その他	6	1	6	鹿児島	1	1	1
県内小計	50	60	97	沖縄	4	3	2
除く鎮西学院	29	30	42	その他	2	3	6
福岡	0	2	1	計	58	71	109
佐賀	0	0	1	除く鎮西学院	34	41	54

1. 募集活動の重点施策

高校訪問数はのべ 1045 校（前年 1254 校）。特に運動部所属生徒及び顧問 への積極的な広報活動を始め、信頼感と密度の高い訪問を実施。

進学説明会は、72 箇所参加。来訪者 93 人（3 年生）のうち 19 人が出願した。

オープンキャンパスは年 3 回（5 月・7 月・8 月）に実施。結果、高校生 275 名が参加、うち出願者 18 名となった。オープンキャンパス参加者の多くが複数の競合大学のオープンキャンパスに参加する傾向が強まっており、他大学との差別化を一層進める必要がある。

2. 広報活動の重点施策

資料請求者のアップと「追い込み広報」、模試における志願者アップを重点目標とし、ホームページのリニューアルと情報の積極的更新、資料請求者・受験者（一般・センター利用試験）への追い込み広報、メディアへの積極的露出方策に取り組んだ。

本学 HP の今年度アクセス数は約 117,000 件。対前年比 156%となった。アクセス数は伸びているが、直接的な資料請求者につながっていない。

受験者本人はもとより、保護者、高校教員向けの学科リーフレット（A4 用紙 1 枚に凝縮）を作成。また 2 月以降の受験者に関しては出願時に高校を訪問、歩留まりのアップに努めた。地元記者クラブとの情報交換会を定期的実施。密度の濃い本学の情報を地域へ発信した。

鎮西学院高等学校 2008年度事業報告

校長 川村 正徳

教育充実

1. 建学の精神に基づいたキリスト教主義人格教育

毎日の礼拝や宗教行事、宗教（聖書）の授業等、神の栄光に預かる喜びを体得するプログラムを設定することにより、学院の建学の精神を堅持し、「魂（こころ）の教育」を推進することができた。また、諫早市民クリスマス、コーラス部によるプロテスタント教会や施設への讚美奉仕等を通じて、鎮西学院の教育を地域にアピールすることができた。

1年生夏期修養会（2泊3日、雲仙）

1年生を対象に「かけがえのない自分」と題して2泊3日の修養会を雲仙で実施。講師として西南学院中学・高等学校 坂東 資朗先生に依頼し主題に掲げた目標聖句の意味を学び、これを深く心に刻む機会とすることができた。

また、この修養会を通してクラスのまとまりもできた。

平和祈念礼拝（8月9日）

全校生、全教職員一同に介し、平和祈念礼拝を守り平和の尊さを改めて確認する機会とした。説教者 本学院 長崎ウエスレヤン大学宗教主任 山城 順教授に依頼した。

教師夏期研修会（1泊2日、雲仙）

青山学院 名誉院長 深町 正信教授により、「世の光、地の塩としてのキリスト教育」と題して、キリスト教学校の使命やあるべき姿を中心に学びを深めることができた。

今後の課題

礼拝担当者（奨励者）の質的向上を目指し、聖書研究会を実施していく。また、地区内の教会案内を作成し、生徒や職員の教会出席を啓蒙する。

2. 学力強化

学校評価制度の導入・定着化

2006年度から、長崎県の私立学校は、生徒・保護者・教師にアンケートをとり学校評価をするようになった。本学院の建学の精神である「キリスト教主義による人格教育」をはじめ、教育活動全般の取り組みが教育目標やシラバスに基づいて実施されているかを、客観的・総合的に評価して、今後の教育活動の改善と充実を図るものである。2008年度の保護者アンケートの結果は、スポーツ活動、生徒の挨拶、学校生活、学院クリスマスに関しては高い評価であったが、課題・宿題の量やチェック機能、生徒と教師のコミュニケーション、授業内容に関しては低い評価であった。

集計結果は3月に保護者、教職員に報告した。

目標設定・自己申告制度の実施

2007年度から、長崎県全私立高校で教職員が職務目標を決め、到達度を自己評価する「目標設定・自己申告制度」を実施することとなった。

教職員の意識改革や能力開発を促すことで、私学の活性化、魅力を引き出すことが目的である。教頭・事務長を中心にして、全教職員との面談を実施し、意見を集約することができた。

対教師研修活動強化

キリスト教学校同盟の研修会（西南地区）、県主催の各種研修会等本校のニーズに合致した研修会に積極的に参加した。また、2008年度は「NPO 大地といのちの会」代表の吉田 俊道先生を講師に依頼し、命の循環と共生、心と体を活性化させるための具体的な食生活、生ごみリサイクル実践方法、環境ホルモンについて講演していただいた。低体温による不登校の生徒が増えつつあることから、今後も「食育」に

関する知識を深めていきたい。

授業の内容充実

朝補習、夕補習、居残り自習時間の制度化、個人指導の徹底により学力向上に努めた。

また、授業公開、研究授業週間の設定、授業観察表による教員相互評価を実施し、授業の質的向上に努めた。普通科一般進学コースに講座制授業を導入し、進路実現をより確かなものにつなげる。(保育・音楽コース、福祉コース、医療・看護コース)

3. キャリア開発(進路指導)

進学支援

授業の充実、補習(朝補習、夕補習、学習合宿)の強化により顕著な進学実績を挙げることができた。九州大学1名、長崎大学4名等国立大学28名合格、4年生大学154名合格。

就職支援

就職指導法のプログラム化、公務員受験講座の開設、インターンシップ制度の強化、就職専門者(嘱託)の配置を行うことにより、公務員合格者12名(国家種2名、県央消防署1名、自衛官9名)を含め就職率100%を達成することができた。今後は校友会企業経営者とのコンタクトを強化するなど積極的に求人活動を展開していく。

4. CHSの活用

CHS(鎮西学院セミナーハウス)の活用により、進学・就職に関する個人指導の徹底を図り、「生徒を育てる」進路指導強化を行った。

5. 国際交流

留学生の派遣および受け入れ

アップルビカレッジへ交換留学生3名を派遣。ロータリークラブより1名、カナダより私費留学生1名受け入れた。

英語圏への海外修学旅行

3月上旬、2年生全生徒がシンガポールへの修学旅行(4泊5日)に参加し、異文化体験を積む。

長崎ウエスレヤン大学との連携

ウエスレヤン大学教員、学生によるアメリカ、カナダ、ブラジル、韓国、中国、タイ、フィリピン等との文化交流会をメイ・フェスタで実施した。30名の生徒が参加した。

今後の課題

姉妹校であるカナダ・アップルビカレッジとの交換留学制度をすすめる。次年度はカナダより2名の留学生を迎える予定である。また、これまで3月下旬実施してきた15日間のロンドンへの語学研修ホームステイへの参加希望者が2008年度は少なかったため実施できなかった。

生徒募集対策

学則定員の確保

県内私学各校の大半が定員縮小を図っているが、本校は2008年度も従来通り学則定員300名の確保を目指し、募集活動を展開してきた。その結果、1,761名(前年比+281名)受験生が与えられ、入学者は定員を上回る324名であった。今後も、「キリスト教による人格教育」「進学・就職実績」「クラブ活動の充実」をピーアールの柱とし、きめ細かな募集活動を行う。

ターゲットエリアと市場ニーズの把握

2008年度は、地元諫早地区、大村地区の中学校及び塾に対して丁寧で、きめ細かな募集活動を展開したことが、この地区からの受験生の増加につながった。

離島は従来通り、対馬地区を重点地区として、中学校訪問の徹底、地区PTAを開催した。手続き者は7名であった。(前年比-3名)

長崎地区からはスクールバス長崎線の増強もあって、受験者も入学者も徐々にではあるが増加傾向にある。(スクールバスも中型から大型に切り替える)

長崎地区の募集に関しては、これからも学校長・教頭も学校訪問に同行するなど力を入れていきたい。

推薦入学者の拡大

推薦入学者に対して入学金の免除する特典制度を設け、推薦入学者増を目指して募集活動を行ったことも入学者増加の要因と思われる。これからも魅力ある学校作り、地域から信頼される学校作りに努力をし、推薦入学者の拡大を図っていく。

オープンキャンパス

2008年度は、7月、8月、11月の3回実施した。目標の1300名に対して1324名の参加者を得ることができた。8月のオープンキャンパスでは新制服のアンケートをとったことや、模擬礼拝の実施は中学生に大変好評であった。

施設・設備整備計画

1) IT関連機器の整備

情報処理教室 ・ のパソコン等整備

2001(平成13)年度に整備したパソコン等が老朽化し授業や検定等に大きな支障をきたしていた。

時代のニーズ、情報化社会に対応できる人材育成を更に進めていくには、パソコン等の入替えは不可欠であった為、8月に生徒用45台・教師用1台ずつを各教室に整備した。

なお、この事業は国庫補助金対象事業として決定され、事業費19,800,000円に対し9,900,000円の補助金を受けることができた。

事務室、進路指導室、図書館等のパソコンの整備

使用頻度が非常に高く、老朽化(7年~10年経過)も進んでいた為、トラブルが発生し業務に支障をきたすことが多々あった。

事務処理ではパソコンは不可欠である。また更なる事務の効率化の為に9月に入替えをした。

2) テニスコートの整備

排水等が悪かった為、年々コート及びその周辺の状態が悪くなり、授業やクラブ活動に支障をきたしていた。

8月に夜間照明付き全天候型テニスコート4面を整備し、教育環境の充実を図った。

なお、テニスコートの人工芝が荒らされないように侵入防止用フェンスも設置した。

テニスコート整備後、テニス部男子が県高校新人大会団体3位などの実績を出した。

3) 校舎内レイアウトの改善

訪問者対応度向上・執務環境の良化を図る為の校舎内レイアウトの改善については、優先順位を考慮しながら、次年度以降の整備として検討していく。

4) 耐震・劣化対策

老朽化している施設・設備については、今後も危険度の高いものから対策を講じていく。

新耐震基準施行(1981(昭和56)年6月1日)以前に建築された建物は次の通りである。

ア)第2体育館(昭和31年建築)、イ)特別校舎(昭和31年建築)、ウ)講堂(昭和36年建築)、エ)図書館(昭和36年建築)、オ)卓球場(昭和55年建築)

ア)~エ)の建物については、約50年が経過しており、莫大な費用をかけての耐震診断・耐震補強を行うことは得策ではない。建替え、統合等を含め今後検討をしていく。

2008年度 鎮西学院幼稚園事業報告書

1、 教育における重点目標

保育のこころ

幼児教育は、人生の土台（人間形成）を育む大切な基礎づくりと心に刻んで保育に努めた。

キリスト教の精神に基づき、愛の言葉で子ども達の心を温め合い、優しさや、慈しみの心を育み、毎朝、子ども達と教師が祈りをもって一日をスタートさせた。

宗教行事の礼拝やピースチャペルでの合同礼拝も、林田院長先生、山城先生、鉄口先生、各牧師先生方のご協力を得て実施出来た。

また園ホールでの合同礼拝は園の教師で実施した。

すべての礼拝で、神様に愛されていることに感謝しながら過ごすことが出来た。

学院を包む広大で緑豊かな自然の中で感性を育て、「幼児にとっては遊びが仕事」という考えの下でのびのびと遊び、そこから社会性や協調性が培われ他者への思いやりやいたわりの気持ちも育ってくるものと信じる。その中で人生の「生きる力」の礎になるように保育を展開してきた。

ひかりの会（保護者会）と共に手をとり合っで子ども達のために理解と協力を訴え実ってきている。その証として園児数増加が物語っている。

保育目標

1. キリスト教の教えの中で、人を思いやり愛ある心を育てる。
2. 自然に恵まれた緑豊かな環境の中でのびのびと遊ばせる。
3. 家庭的な雰囲気の中で、周りの大人も子ども達とともに育っていく保育を目指す。

2、 園児募集対策

「勝ち残るための戦略計画」として、教職員全員心血を注いで汗をかき募集活動の充実を図り遂行した。

キリスト教保育の充実

『保育のこころ』や『保育目標』・ピースチャペルでの親子礼拝・毎日の保育室での礼拝・クリスマス祝会等を通して、当園の特徴を保護者に理解してもらうように充実を図った。この年より新しい前進のために、6月2日よりピースチャペルでの合同礼拝を「親子礼拝」とした。牧師先生のお話を聞き讃美歌を歌い、子ども達と一緒に心静かに礼拝の時を過ごしましょうと訴え導入した。

緑豊かな学院全体の活用強化

園内はもちろん、高等学校のグラウンド、大学のキャンパス、自然に恵まれた広大で緑深き環境が、すべての子ども達の遊び場、探検の場となる。

そこには、子ども達のこころを育む幼稚園だということを、昨年度以上に活用し、もっと前面に打ち出す。保育や募集に役立っていることが証明されている。

外注弁当導入実現

子育て支援の一環として、2008年度4月より希望者制でスタートさせる。

従来の家庭手作り弁当方式は、現状維持で進めている。

未就園児と親子のつどいの推進 (オープンキャンパス)

保育主任主導で月3回おひさまくらぶ(2歳以上対象)実施。学期毎に1~2回グリーンクラブ(1歳以上対象)。内容を充実させ、参加者の親からは喜ばれ園児募集には大いに貢献した。

行事の充実

2007年度より導入した親子で楽しむ夏の夕べ・ふれあい動物広場・親子で楽しむ芋うね作り親子レクリエーション等が定着してきた。この様な行事を通して、子ども達や保護者と教職員が楽しいひとときに言葉を交わすことで保護者との一体感が生まれ幼稚園との信頼関係が良好と思われる。募集には貢献している。

院内耐寒マラソンで日本一周(年長)九州一周(年中)諫早一周(年少) 大きな各地図を作り塗りつぶしていき走破した達成感を味わわせる。1~3月。

アイススケート体験実施は不発に終わる。

預かり保育の時間延長導入実現

子育て支援の一環として、昨年度までの18:00を30分延長し18:30までとした。口コミでお母さん方へ伝わり喜ばれている。

園長体操教室の取り組み

他園には真似できない園長体操教室。幼稚園には男性教職員が少なく、女性教職員が多い中で、男性園長が実施することに意義があるようだ。

子ども達の喜びが大きく保護者にも好評なので、2ヶ月に1回を1ヶ月に1回に強化したいとしていたが、現実には後退し見直しが必要。(原因は園長自信の年齢にあり、今後専門家導入も検討したい)

インターネットによるブログの充実

ホームページにブログを開設し、4~5日置きに更新している。保護者や一般の方が子ども達の生活を見られている。また、入園時期の幼稚園選びの一助にもなっており力を注いできた。発信者は教師たちで苦労もあるが今後も強化していきたい。

(多い日で2月15日514件のアクセス数があり驚きである)

ミニ講演会の取り組み

食育や子育てに役立つ話をお母さん方に発信し、文化面の活動も推進できた。

高校吹奏楽部による『森の園庭 演奏会』の推進

優れた生演奏を聞かせることで、芸術との出会いがあり、それによって感性や創造性、心豊かなものを育んでくれるものと信じている。このような生演奏会は本園にしか出来ない文化活動である。しかし今年度は実現不可で残念である。今後実現を目指したい。

国際交流会の活動推進

大学・高校の留学生を幼稚園に招き、各国の紹介や歌等で交流を深めたい。残念ながら実現していない。

制服の完全変更への取り組み

若いお母さん方がわが子に是非とも着せてみたいと思われる制服をデザインサンプルまで進行中。(2010年度実施)

ポスター掲示の強化

昨年斬新なポスターや入園案内は好評である。ポスター掲示は校友への依頼を重点的に取り組む。この広報活動で幼稚園の存在感を強化できた。

園長自ら正門に立ち朝の挨拶活動励行

雨の日、風の日、暑い日、寒い日も、子ども達と保護者を笑顔でお迎えし、重要なコミュニケーションをはかる手段として実行中。保護者には感謝されており、信頼関係の構築のためにも役立っている。

園児数の推移

2002年度・・・93名

2003年度・・・92名

2004年度・・・94名

2005年度・・・80名

2006年度・・・77名

2007年度・・・64名

2008年度・・・72名

(2009年度98名5月7日現在)

最後に、園児募集対策の重点策は基本的に『保育の充実』にある。教師が研鑽を積むことで、より良い保育の実践が展開されることを、教職員が理解し努力してきた。

3、 施設、設備及び環境整備

ミニバス（ワゴン車）をタクシー会社への業務委託導入

園児募集の拡大のため市内の狭い路地にも運行し、園児を確保できた。また市内を走ることにより、広告塔の役目も成功し、波及効果も大きかった。園児募集には大きく貢献している。

園バス全面塗装完了

子ども達や保護者に明るいイメージを持ってもらい好評である。

各保育室前廊下の床研磨完了

古くて汚れていた廊下を、木の本来の良さに蘇らせて木の温もり、木の香り、安らぎにも役立ち快適な園生活になっている

廊下に雨が降りこむための防御策

雨風がひどい日は廊下に雨が降り込み、子ども達が朝の靴の履き替え時に、濡れてしまい、園児達に対して苦慮しているがまだ実現していない。今後とも推進に向け努力していきたい。

園庭整備の推進強化

常に芝が刈られていて美しい園庭にしたい。緑の芝生の上で子ども達が、素足でかけっこをしたり気持ちよく遊ばせた。また、園庭の周りには季節の花を咲かせ、明るい雰囲気になるように推進強化出来た。遊具においては、ペンキ塗りを教職員総掛りで実施。明るいイメージアップに子ども達や保護者に好評。

4、 危機管理

夜間の防犯管理は警備会社の委託し、警備体制をとっている。

幼稚園の遊具による事故は絶対に避けなければならないので安全・安心が命。

学期ごとに教職員総出で点検している。(特に腐食等を要注意)

防犯や防災のための避難訓練は各学期ごとに2回実施している。(不審者・火災・地震)

不審者対策で、正門前の運行部に応援要請しているので心強い。

職員室にはさす股も常設しており強い味方になっている。